リハビリテーション総合実施計画書

計画評価実施日 年 月 日

患老	氏名			男	• 7	b	生生	E月日 ()	明・大・昭・	亚•	会) 年		月		日(歳)	利き手	右•	右(矯正))•左	
主治		リハ担当医		73	-	^ PT	_	1 71 11 (OT		ST		/1		看護	/////	SW等	711 /	<u>П (Мі) Ш.</u>	, 4.	
		発症・受傷日)		合	併兆			ントローバ		廃	用症候群	_	軽月			上 度 □重度		ーショ	ン歴		
				(高	5 ún.)	王,	心彩	患,糖尿	病等)	Πį	起立性低血	nÆ									
□静脈血栓																					
日常生活自立度:J1, J2, A1, A2, B1, B2, C1, C2 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準:I, II a, II b, III a, III b, IV, M																					
評価項目・内容(コロン(:)の後に具体的内容を記入)																					
		裁障害:(3-3-9:)							□知覚障害(□視覚,□表在覚,□深部覚,□その他:)											
心身機能・構造	□認知								□音声·発話障害(□構音障害,□失語症)(種類:)												
		が停告: 								□失行•失認:											
	□中枢性麻痺									□摂食機能障害:											
	(ステージ・グレード)右上肢: 右手指: 右下肢: 左上肢: 左手指: 左下肢:										□排泄機能障害: □呼吸•循環機能障害:										
	左上放: 左手指: 左下放: □呼吸・循環機能障害: □筋力低下(部位, MMT:) □拘縮:																				
	□不随意運動・協調運動障害:											□褥瘡:									
造		位保持(装具:							り, □不可		□疼痛:										
	本 平行棒内歩行(装具:) □独立 ,□一部介 動 訓練室内歩行(装具:) □独立 ,□一部介																				
	作	N. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1.	_			, ,		,, = 11,1,7													
					_	_	_	東) 実行状	:況:「してレ	る	"活動"」						フ:「できる'	活動"			
		自立度	自	監		全						独	監		全非						
	ADL・ASL等			部介			実	実 使用用具 姿勢・ 杖・装具 介助内:						部介	介実	使用用具 姿勢·実行場所 杖·装具 介助内容			所 等		
	ADL•A2L等			視		助	施	似"农共	江朔174	A [*]	等	立			助施		21.かわ	谷	寺		
	屋外步							杖•装具:								杖•装具:					
	階段昇 廊下步							杖・装具: 杖・装具:								杖·装具: 杖·装具:					
		へい <u>ルへの歩行</u>		L				杖•装具: _								杖・装具:					
		イレへの車椅子駆動(昼)						装具:								装具:					
		ヱ・ベッド間移乗 E位保持						装具: 装具:								装具: 装具:					
活		記き上がり		L				30.54.								30.54					
動	食事							用具:								用具:					
39/1	排尿(排尿(便器: 便器:								便器: 便器:					
	整容	~~						移動方法・	姿勢:							移動方法・	姿勢:				
	更衣	靴の着脱						姿勢:								姿勢:					
	入浴	学儿 グノイ目 ルカル						姿勢: 浴槽:								姿勢: 浴槽:					
	コミュニ	ニケーション		•		•															
	古動度	₹ 日中臥床:□無,□有 日中座位:□椅子(背	• •				⊓≉	子(背む)	きれあり 「	□棒	子(背むた		由 肘う	计和	50) r	□重椅子	□ベッドト	. □キ゚ュュ	ッチアップ゜)	
		□ /五四·□10 1 (E	, 0/	_41	- با بان	-/,	11	, , (H D)	_n v u y y / / , L	一门門	, (H D/C	., v,	עניי	. <i>) U</i>	,,,, L	— — უო J ,	>1: T	, 🗀 1 7	,,,,,,		
	身長#1	:()cm, 体1	重:	(.)	kg, BMI [#]	1:($) kg/m^2$	#1 #	身長海	11定	が困難な	よ場合は省略	可				
栄養※	身長 ^{#1} :()cm, 体重:()kg, BMI ^{#1} :()kg/m ² #1 身長測定が困難な場合は省略可 栄養補給方法(複数選択可): □経口(□食事, □補助食品), □経管栄養, □静脈栄養(□末梢, □中心) 嚥下調整食の必要性: □無, □有(学会分類コード:)																				
		『態:□問題なし、□										他	()					
	【「問題	iなし」以外に該当した場合、以	人下‡	記え	\]																
	必要第	关養量: () ko	cal,	7.) g												
		文栄養量 ^{#2} (経口・経管・ 入院直後等で不明の場合は終						() ko	cal,	たんぱく	く質	() g					
	#2 入院直後等で不明の場合は総提供業養量でも可 職業 (□無職,□病欠中,□休職中,□発症後退職,□退職予定) 社会参加(内容・頻度等)																				
参加	似未	(職種·業種·仕事内容:		w.T'	, ⊔	元力	上仪	ಲ್ಗಳ, ⊔ಸ	空1000 17 7年) 口云《	>- /J -	(廿	观坟	4)					
	経済生	於兄 () 全眼注) 今暇汗動(内容•頻度空)									
	経済状況() 余暇活動(内容・頻度等)																				
心	障害の受容(□ショック期 ,□否認期,□怒り・恨み期, 依存欲求(□強い,□中程度,□普通,□弱い)																				
理	□悲観・抑うつ期,□解決への努力期,□受容期) 独立欲求(□強い,□中程度,□普通,□弱い) 機能障害改善への固執(□強い,□中程度,□普通,□弱い)																				
-													安長 .								
環	四/百 多/庆:																				
境	親族関係:										交通手段:										
第発病による家族の変化																					
不三利者	□社	会生活: 康上の問題の発生:																			
1 0		ルーマノロル ^図 マノ兀 上・																			

基本力	7針	本人の希望								
		家族の希望								
リスク・	疾病管理(含:過用·誤用)		スマンカル王							
リハビ	リテーション終了の目安・時期	外泊	訓練の計画							
	目標(到達時期)		具体的アプローチ							
参目	退院先 □自宅 □親族宅 □医療機関 □その他: 復職 □現職復帰 □転職 □不可 □その他: (仕事内容: 通勤方法の変更 □無 □有: 家庭内役割: 社会活動: 趣味:)								
バスて	自宅内歩行 □不可 □自立 □介助: (装具・杖等: 屋外歩行 □不可 □自立 □介助: (装具・杖等: 交通機関利用 □不可 □自立 □介助: (種類: 車椅子 □不要 □電動 □手動 (使用場所: (駆動 □自立 □介助)(移乗 □自立 □介助: 排泄 □自立:形態 □洋式 □和式 □立ち便器 □その他))))								
・構造	基本動作(訓練室歩行等) 要素的機能(拘縮·麻痺等)									
心 理	機能障害改善への固執からの脱却:									
環境	自宅改造 □不要 □要: 福祉機器 □不要 □要: 社会保障サービス □不要 □身障手帳 □障害年金 □その他: 介護保険サービス □不要 □要:									
	退院後の主介護者 □不要 □要: 家族構成の変化 □不要 □要: 家族内役割の変化 □不要 □要: 家族の社会活動変化 □不要 □要:									
退院後又は終了後のリハビリテーション計画(種類・頻度・期間) 備考										
本人・家族への説明 年 月 日 本人サイン 家族サイン 説明者サイン										

⁽リハビリテーション実施計画書及びリハビリテーション総合実施計画書記入上の注意)
1. 日常生活自立度の欄については、「「障害老人の日常生活自立度 (寝たきり度) 判定基準」の活用について」(平成3年11月18日 老健第102-2号)厚生省大臣官房老人保健福祉部長通知によるランクJI、J2、AI、A2、BI、B2、C1又はC2に該当するものであること。
2. 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準の欄については、「「認知症高齢者の日常生活自立度判定基準」の活用について」(平成5年10月26日 老健第135号)厚生省老人保健福祉局長通知によるランク I、II a、II b、III a、III b、IV 又はMに該当するものであること。
3. 日常生活 (病棟) 実行状況:「している"活動"」の欄については、自宅又は病棟等における実生活で実行している状況についてであること。
4. 訓練時能力:「できる"活動"」の欄については、機能訓練室又は病棟等における訓練・評価時に行うことができる能力についてであること。